

「少子化対策について」アンケート実施報告

健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課

これからの三重県の子どもが豊かに育つ地域づくりに向けての参考とするため、少子化対策に関する意識などについて、e-モニターの皆さんにご参加いただき、アンケートを実施しましたので、その結果をお知らせします。

アンケートにご協力くださったe-モニターの皆さん、ありがとうございました。

【アンケート概要】

1 アンケート実施期間

平成27年7月10日から平成27年7月27日まで

2 意見募集の結果

対象者数 1216人

回答者数 824人（回答率 67.8%）

3 回答者の属性

| | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳以上 | 総計 |
|----|------|------|------|------|------|-------|-----|
| 男 | 29 | 62 | 103 | 92 | 112 | 30 | 428 |
| 女 | 53 | 103 | 93 | 83 | 51 | 13 | 396 |
| 総計 | 82 | 165 | 196 | 175 | 163 | 43 | 824 |

【アンケート結果】

1 三重県子ども条例について

Q1 県では、「子どもが豊かに育つことができる地域社会」の実現をめざし、三重県子ども条例を策定しました。あなたは、「三重県子ども条例」のことを知っていますか。

Q2 Q1で「名前も内容も知っている」「名前だけは知っている」と答えた方にお聞きします。あなたが三重県子ども条例を知ったきっかけは何ですか。

子ども条例について、32.4%の方が「名前も内容も知っている」、「名前だけは知っている」と回答した一方で、67.6%の方が「全く知らない」と回答しており、引き続き、子ども条例について皆さんに知っていただく取組が必要です。（図1）

なお、条例を知ったきっかけは「県や市の広報紙」の割合が52.4%で最も高くなっています。（図2）

図1 子ども条例の認知度

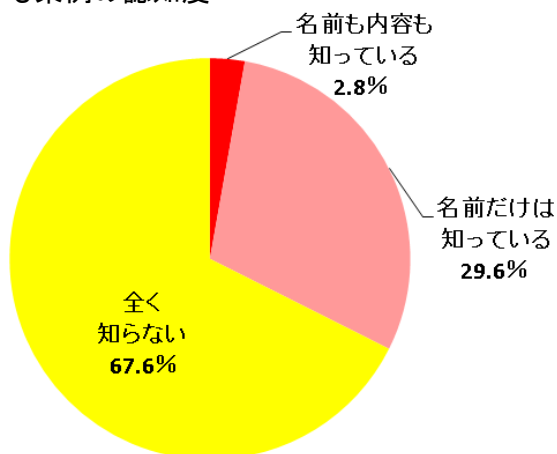
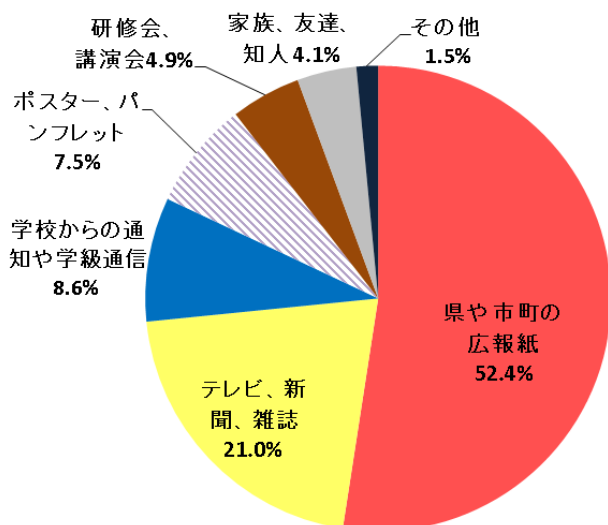


図2 子ども条例を知ったきっかけ



2 少子化に対する関心などについて

Q3 県では、結婚や妊娠、子育ての希望がかない、すべての子どもが豊かに育つことのできる三重をめざして、「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」に基づき、さまざまな少子化対策の取組を進めていますが、地域社会においてその効果や成果が現れてきていると思いますか。

Q4 あなたは最近、以前より少子化に関心を持つようになったと感じていますか。

Q5 我が国では子どもの数が減少していますが、こうした少子化の状況に危機感を感じていますか。

「少子化対策の取組の効果や成果が現れていると思うか」という質問に対して、「思う」、「どちらかといえば思う」と回答した割合は11.1%で、「どちらかといえば思わない」、「思わない」の46.4%よりも低くなっています。「わからない」は42.6%となっています。(図3)

また、「以前より少子化に関心を持つようになったか」という質問に対して、「持つようになった」、「どちらかといえば持つようになった」と回答した割合は63.2%で、「以前と変わらない」よりも高くなっています。(図4)

次に、「少子化の状況に危機感を感じているか」という質問に対して、「感じている」、「どちらかといえば感じている」と回答した割合は88.2%となっています。(図5)

なお、少子化に対する関心と危機感の関係を見ると、少子化に対する関心を「持つようになった」人ほど少子化に対する危機感を感じる事がわかります。(図6)

図3 少子化対策の取組の効果や成果が現れていると思うか

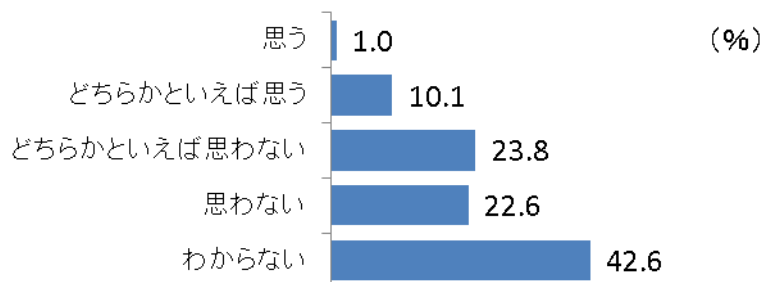


図4 少子化に対する関心

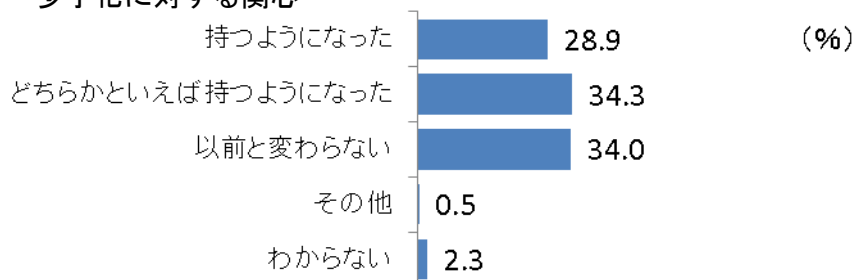


図5 少子化に対する危機感

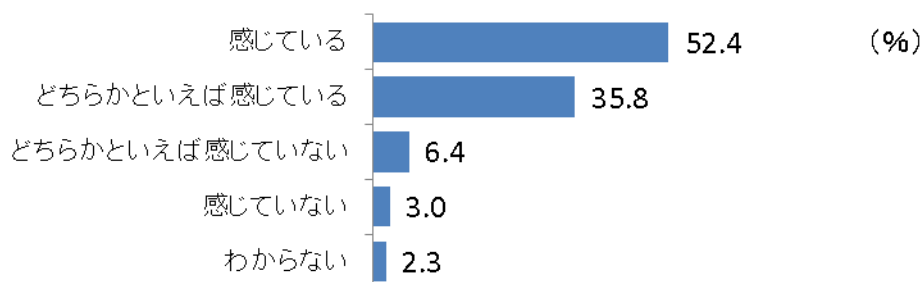
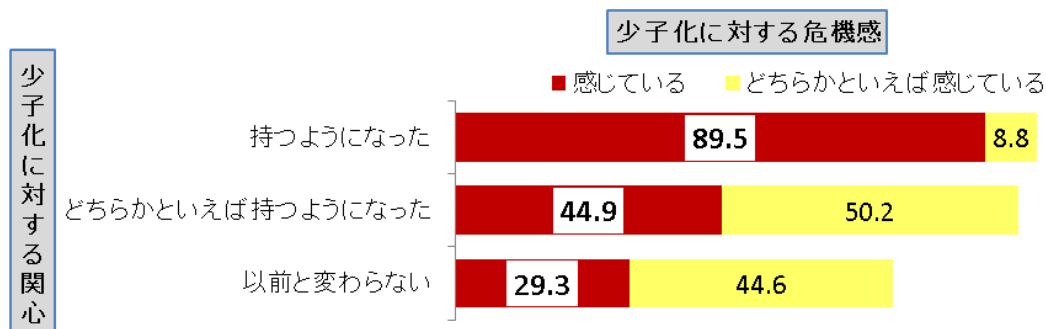


図6 少子化に対する関心と危機感の関係

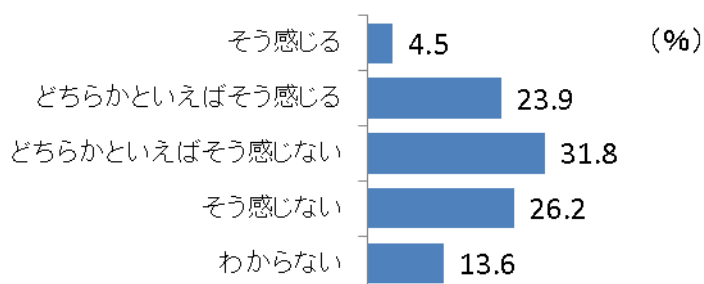


3 子どもや子育て家庭を応援する取組について

Q6 あなたは、子どもの育ちや子育て家庭を応援する地域づくりに向けた取組が進んでいると感じますか。

「子どもの育ちや子育て家庭を応援する地域づくりに向けた取組が進んでいると感じるか」という質問に対して、「そう感じる」、「どちらかといえばそう感じる」と回答した割合は28.4%で、「どちらかといえばそう感じない」、「そう感じない」の割合（58.0%）よりも低くなっています。（図7）

図7 子どもや子育て家庭を応援する取組が進んでいると感じるか

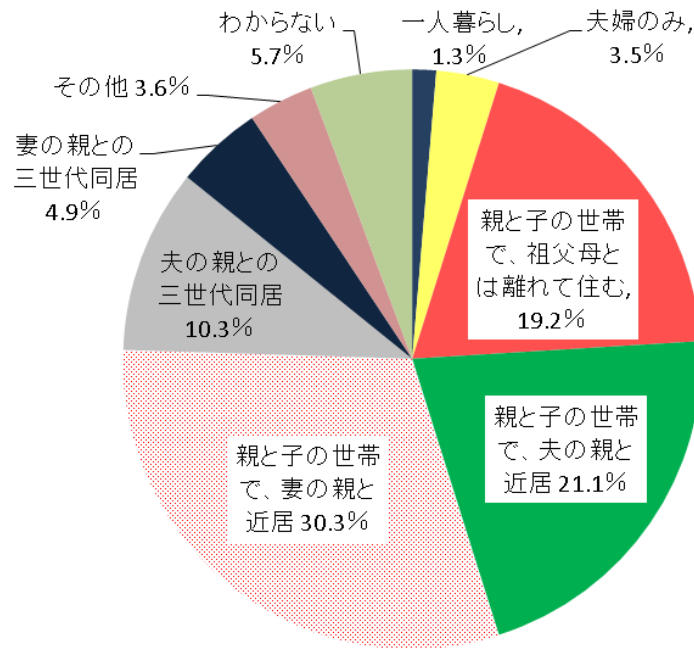


4 理想とする家族の住まい方

Q7 あなたにとって、理想の家族の住まい方はどのようなものですか。

「あなたにとって、理想の家族の住まい方はどのようなものか」という質問に対しては、「親と子どもの世帯で、母方の祖父母（妻の親）と近居」が30.3%で最も高く、次いで「親と子どもの世帯で、父方の祖父母（夫の親）と近居」（21.1%）となっており、3人に2人は三世代の同居や近居を希望しています。（図8）

図8 理想とする家族の住まい方

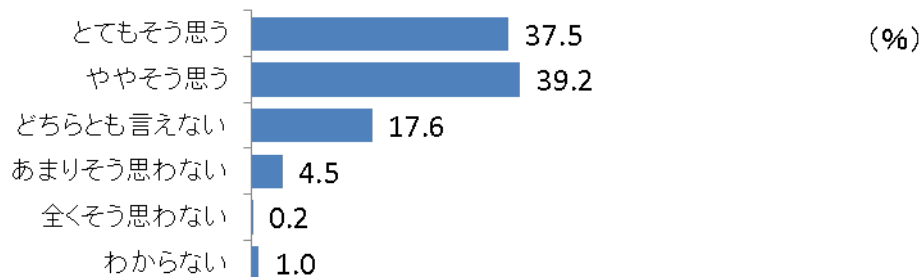


5 祖父母による育児・家事の手助け

Q8 あなたは、祖父母が育児や家事の手助けをすることは望ましいと思いますか。

「祖父母が育児や家事の手助けをすることは望ましいと思うか」という質問に対して、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の割合は76.7%で、4人に3人は祖父母による育児や家事の手助けをすることは望ましいと考えています。（図9）

図9 祖父母による育児・家事の手助けが望ましいと思うか



6 男性の育児参画について

Q 9 父親が育児をすることについて、あなたはどのように思いますか。

Q 10 県では、その人なりの方法で、家庭や地域において育児に積極的に参画する男性を増やしていこうと、「みえの育児男子プロジェクト」を進めていますが、あなたはそのことをご存じですか。

Q 11 あなたは、男性が今以上に育児に参画するために必要なことは何だと思いますか。(主なものを2つ)

Q 12 あなたは、子育てに関して、男性の最も大切な役割はどのようなことだと思いますか。

「父親が育児をすることについてどう思うか」という質問に対して、「父親も母親と育児を分担するなど積極的に参加すべき」の割合が49.5%で最も高く、次いで「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」、「父親は外で働き、母親が育児に専念すべき」の順となっています。(図10)

また、「みえの育児男子プロジェクト」について、30.1%の方が「名前も内容も知っている」、「名前だけは知っている」と回答した一方で、69.9%の方が「全く知らない」と回答しています。(図11)

次に、「男性が今以上に育児に参画するために必要なことは何だと思いますか」という質問については、「職場の上司や同僚の理解」の割合が41.6%で最も高く、次いで「育児に参画しようとする気持ちを持つこと」が39.3%、「休暇を取りやすい職場の雰囲気」が33.6%などとなっています。(図12)

さらに「子育てに関して、男性の最も大切な役割はどのようなことだと思うか」という質問に対しては、「子どもとたくさん遊んだり、スポーツをしたり、いろいろなことを体験させること」の割合が38.1%で最も高く、次いで「子どもに道徳心やマナー等を教えること」が22.1%、「家事や子どもの身の回りのことを積極的にすること」が15.4%となっています。

図10 男性の育児参画についての考え方

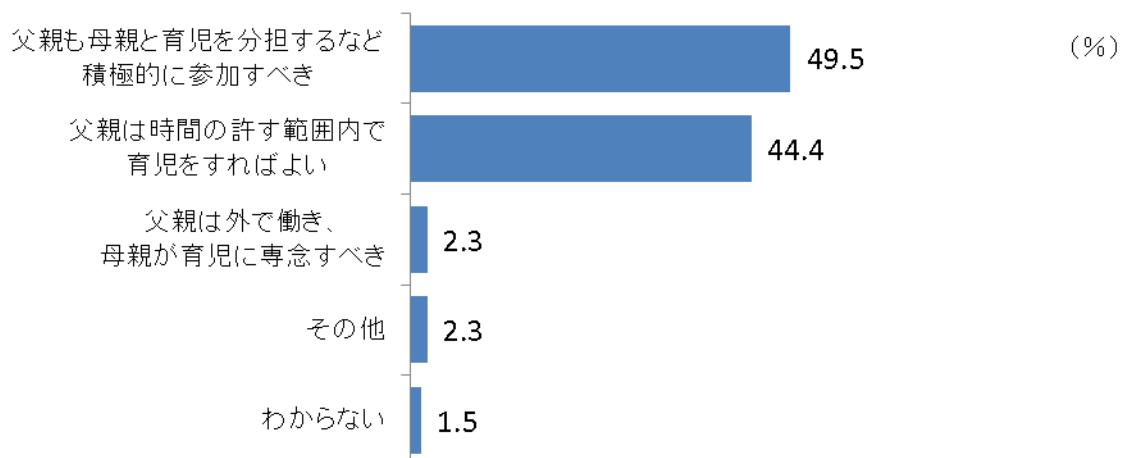


図 1 1 みえの育児男子プロジェクトの認知度

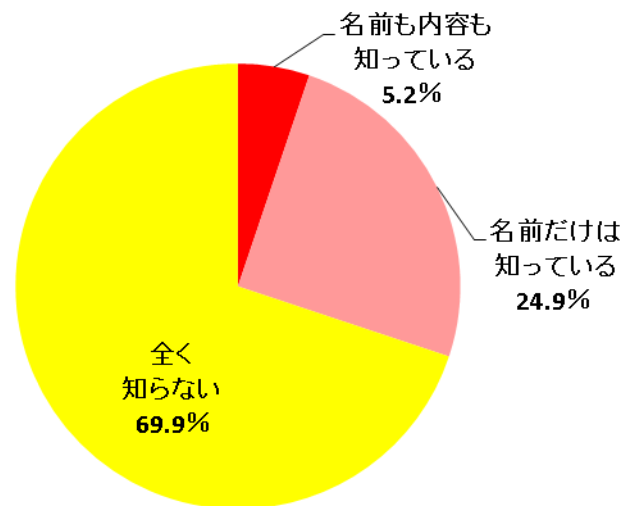


図 1 2 男性の育児参画を進めるために必要なこと

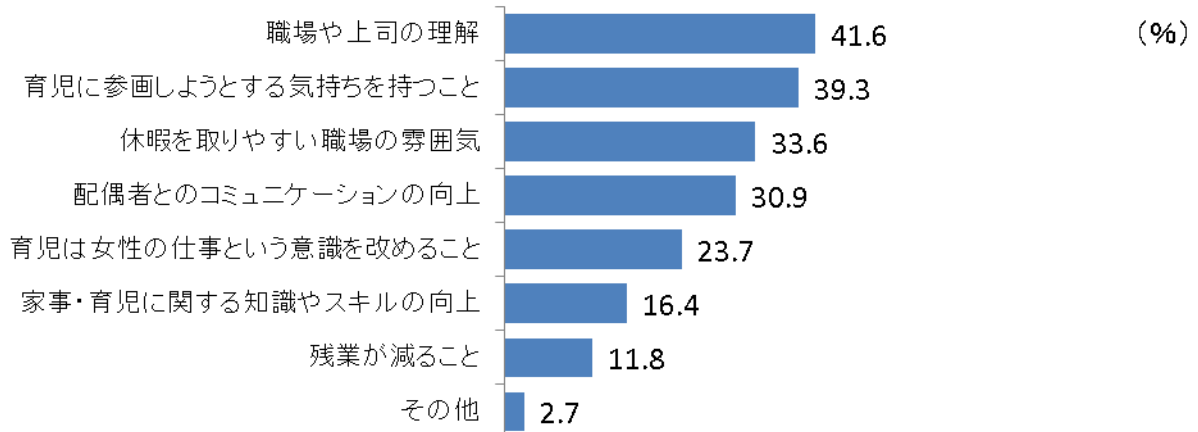
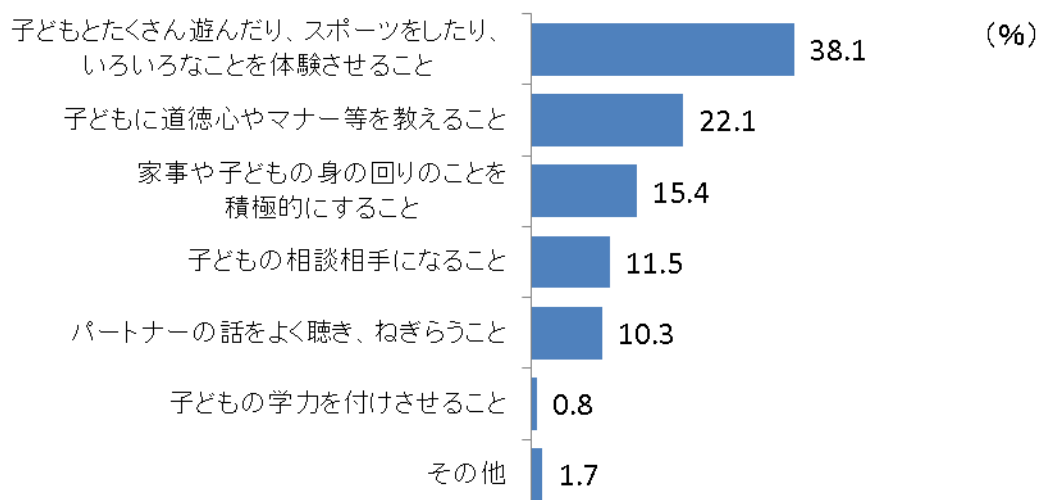


図 1 3 子育てに関する男性の役割



9 未婚や晩婚が増えている理由について

Q13 日本では、「未婚」「晩婚」が増えてきています。あなたは、未婚の人が結婚していない理由は、どれだと思いますか。（はてはまるもの全て）

「未婚の人が結婚していない理由」については、「自由な生活を失いたくない」の割合が47.9%で最も高く、次いで「出会いがない」が45.9%、「収入が少ない」が45.0%などの順となっています。（図14）

図14 未婚や晩婚が増えている理由

